



ちが多く生活する福島県田村市の旧春山小学校へ届けた。

「新鮮な魚を」に 応えてマグロ丼

「新鮮な魚を食べたい」という被災地の要望に応じて東京教区現地緊急災害対策本部は

5月11日、築地市場で仕入れたマグロの漬け丼200食分を、原発事故から避難した人た

築地別院内の日本料理「紫水」で仕込み、長島博料理長と同教区青年僧侶協議会の会員、同別院職員10人が現地を訪れ、盛り付けなどをして振る舞った

(写真)。

住民からは「震災後、初めての新鮮な魚」久しぶりの新鮮なマグロは有り難かった」など

の声が聞かれた。また、和田堀廟所に供えられたお菓子などを小分けにし200人分を持参した。

この後、地震発生の後2時46分に合わせて震災2カ月法要を体育館で営んだ。参列した64人が焼香、「おつとめがひとつの節目となった」「生活不安は尽きないが、気持ちに少しだけ区切りを付けることができた」などと語っていた。

2カ月間に3回も避難所を移った人や、疲労やストレスで体調を崩す人が多いという。同市社会福祉協議会のスタッフは「今後は物的支援ではなく、住民の心と体のケアの面で支援していただければ」と話していた。